

聖徳大学生涯教育文化学科講師

p57-16

# 齊藤 ゆかさん(32)

＝ボランティア論



団塊世代が、定年退職を迎える。これまで、定年退職後の暮らしと言え

は「介護」や「社会保障（生産的加齢）」という費の増加」などの側面から語られてきた。だが、「高齢になっても多くの分野で活躍し、成長を遂げることが出来る」。米の研究者ロバート・バラーが提唱した「プロダクティブ・エイジング」や家事・介護・育児労働

## ボランティアで生涯現役

働、趣味で身につけた技術を使って活躍している人がいた。大病などの体験が要因になっているケースもあった。インターネットを通して、ボランティアをしたくても、きっかけがなく踏み出せずにいる人も多い、と感じた。今後はこういった人々が参加できるよう、喫茶店などに協力してもらって、高齢者同士が気軽に集まれる「たまり場」を作るなど、「意図的な仕掛けを作りたい」と話す。研究のきっかけは団塊世代の父親だ。子どもの頃、父はいつも仕事に忙殺されていた。周りを見渡せば、友達の家も似たり寄ったり。「この世代は、地域とのつながりや趣味がない人が多い。退職後に生きがいを失うのではないか」と疑問に思い続けてきた。大学院では、学校教育で福祉やボランティアをどのように教えるかを研究してきた。ただ、学校は授業時間数などの制約も多く、「ボランティア福祉は学校教育の中だけではとても教えられない」。生涯教育の視点から、今回の研究に取り組んだ。（長富由希子）